

WEEKLY SIGNAL

平成27年2月20日(金) 1263号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	2/23(月)	2/24(火)	2/25(水)	2/26(木)	2/27(金)
無担保O/N			0.030%	0.125%	
銀行券	△ 100	△ 1,000	△ 1,000	△ 2,000	△ 2,000
財政他	△ 17,900	+ 2,000	ト ン	△ 5,000	+ 6,000
資金需給	不 18,000	余 1,000	不 1,000	不 7,000	余 4,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)			国債発行(40年)	交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,700 CP買入 △ 400				
オペスタート	共通担保(全店) + 2,500 ETF買入 + 200	国債買入 + 11,800 短国買入 + 25,000			
(日本)	日銀金融政策決定会合 議事要旨(1月20、21日分)	企業向けサービス価格(1月) 日銀営業旬報 (2月20日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額		石田日銀審議委員講演 (横浜市) 対外対内証券売買(前週分)	消費者物価指数(全国1月、 東京都区部2月) 家計調査(1月) 完全失業率(1月) 有効求人倍率(1月) 鉱工業生産指数(1月)
(海外)	米 中古住宅販売件数(1月)	米 イェンFRB議長、上院銀行 委員会で証言 米 S&P/ケースシャー住宅価格 指数(12月) 米 消費者信頼感指数(2月) 欧 ドラギ'ECB総裁講演 欧 ユーロ圏消費者物価指数 (1月改定値)	米 イェンFRB議長、下院金融 委員会で証言 米 新築住宅販売件数(1月) 米 MBA住宅ローン申請指数 (20日終了週) 欧 ドラギ'ECB総裁議会証言	米 消費者物価指数(1月) 米 耐久財受注(1月) 米 新規失業保険申請件数 (21日終了週) 欧 ユーロ圏景況感指数(2月)	米 GDP(10-12月期、 改定値) 米 シカゴ製造業景況指数 (2月) 米 シカゴ大学消費者マインド 指数(2月、確定値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.080 ~ 0.120
SPOT 2M	0.080 ~ 0.125
SPOT 3M	0.110 ~ 0.140
SPOT 6M	0.130 ~ 0.170

<インターバンク>

今週の日銀当座預金残高は週初183兆円台から始まり、国債・国庫短期証券発行等の資金不足要因はあったものの、日銀の国債・国庫短期証券買入オペ等の潤沢な資金供給により、181~184兆円台で推移した。無担保コールON物は、週を通して0.07~0.075%で取引された。一部市場参加者による0.12%台の試し取りも多く見られたことから、加重平均金利は0.075~0.082%での推移となった。ターム物は、1W~1M物で0.11%台後半の出会いとなった。17・18日に実施された日銀金融政策決定会合では、金融市場調節方針の現状維持を決定した。また、景気判断は据え置かれたが、輸出・鉱工業生産の判断はそれぞれ引き上げられた。来週の材料は国内では1月分の日銀金融政策決定会合議事要旨(23日)、

消費者物価指数(27日)、完全失業率(27日)があり、海外ではイェンFRB議長議会証言(24日上院、25日下院)、米10-12月期GDP(27日)がある。

【オープン市場】

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.085 ~ 0.095
TDB 3M	▲ 0.005 ~ 0.005
現先(on/1w)	0.080 ~ 0.100

<CP>

今週は、入札発行額は約7,500億円で、期落ち額約6,800億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。カード会社の1000億円規模の案件により、発行額が膨らんだ。

今週の3M物の入札発行レートは、0.090%台半ば~0.110%台後半と、横這い~小幅上昇した。

現先レートは、0.080%~0.100%程度で推移した。

来週の期落ち額は約19,500億円となっている。

<TDB>

19日に国庫短期証券3M第514回債の入札が行われたが、最高落札レートは0.0060%(前回債0.0020%)、平均落札レートは0.0036%(前回債△0.0004%)と前回債から利回りは上昇した。セカンダリーは3Mで0.000%近辺の出会い。6M、1Yは目立った出会いは見られなかった。来週26日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは先週末同様0.06~0.07%近辺の出会いから始まり、週央には短国1Yが発行されたこともあり0.07~0.075%での出合まで上昇。19日には短国3M・流動性供給入札が行われ、2/23-24のS/Nでは0.09%、T/Nでは0.10%まで上昇。週末には日銀の短国買入・利国買入オペが合計3兆6800億円オファーされ、0.07~0.075%の出合を抜け越した。SCは10年335・336回債が引き続きO/N物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。10年335回債はO/N物で△0.06%、10年336回債は△0.01%の出合が見られるなど、需給が軟化した。10年337回債は来月の10年債入札を睨み、ターム物のビッドが目立った。5年債は121・122回債、10年債は312・319・321・323・325回債に引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。